

鮭おこし



こどもの居場所

会長 清水 剛志

1994年、日本が「子どもの権利条約」を批准しました。この条約を批准し30年経ちます。昨年、「子ども家庭庁」が発足し、「子ども基本法」が施行され「こども大綱」がしめされています。こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」は、全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会（こども・若者から見てどのような社会かを具体的に記載）であり、全ての人にとって、社会的価値が創造され、幸福が高まることにつながります。

子ども家庭庁では、いじめの防止対策や不登校対策等を文部科学省とともにを行っています。不登校対策については、全国で不登校児童生徒数が30万人を超え、年々増加しています。様々な対策のなかで、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」に「多様な居場所づくりを推進」とあります。それぞれの子どもにあった居場所が必要であり、子どものニーズにこたえていくこととなりますが、設置するのはその声を聴く大人になります。現在、学校内に校内フリースクールを設置している学校がありますが、校外のフリースクールやネットによる学びの場など多様な形態で学びを保障しようとしています。さらにいえば、「生きる」場所としての居場所が求められています。

こどもまんなか社会といわれますが、社会の状況を鑑みますと「生きる場所」は年齢を問わず共通して必要ですね。権利を擁護するソーシャルワーカーに求められる役割の重さを感じます。

研修報告(基礎研修 I)

基礎研修は社会福祉士として共通に必要な価値・知識・技術を学び、社会福祉士の専門性を身につける研修です。その中でも基礎研修 I の目標は、社会福祉士としての自覚を促すとともに実践の基礎となる専門性について理解する研修です。今回は、3名の会員の方から報告をいただきました。



学校法人神通学館 高朋高等学校

堀田 英美

私は今、教育関係の仕事をしています。子どもを取り巻く環境は、少子化、価値観の多様化など、大きく変化し複雑化しています。そのような状況に対応するには、福祉の知識が必要であると感じ、社会福祉士の資格を取りました。しかし、学んだことをなかなか活かさない現実や資格をもたない人と自分の何が違うのかという思いで、もやもやと悩むことが増えてしまいました。そこで、もう一度基本に立ち返り、社会福祉士としてどうあるべきかを考えたいと思い、基礎研修に参加することに決めました。

10/5に行われた研修では、支援の流れを再確認したり、分野は違えど、同じ社会福祉士として働く方々の熱い思いを聞いたりして、刺激をもらいました。すべての土台にあるのは「権利擁護」。支援が必要な人たちの権利や尊厳を守り、その人らしい生活を支えることです。これからの研修でさらに自己研鑽を積み、クライアントに寄り添った支援ができるように成長していけたらと思います。

アルペン居宅介護支援事業所 松井 秀樹

今年、社会福祉士の資格を取得して、最初に思った事は、まずこの基礎研修 I を受講する事でした。そして、事前課題と e-ラーニングを終え、この日を迎える迄、待ち遠しい日々でした。そして 10月5日の受講に至りましたが、3グループに別れ、5人ずつのファシリテーター1人つく形式でグループワークを行いました。テーマは「社会福祉士としての専門性について考える」で、異なる分野の者同士が、知っている限りの知識を出し合いました。

最初は、社会福祉士が勤務している事業所での業務を参加者全員が付箋に書いて模造紙に貼り付け、その後、事業所を取り除き、業務を相談、権利擁護等に分類し、更にそれらを高める為に何をすべきかをまた付箋に書いて貼り付け、そして各グループ毎に発表するといった内容でしたが、受講者の意識の高さに刺激され、ファシリテーターのフォローに安心した時間になりました。

12月7日にまた講義があり、それまでの事前課題で大変な日々を過ごす事になりますが、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

株式会社 G&G パズルワークス 銀納 直人

福祉業務の現実についてのグループミーティングでの内容は、深く考えさせられるものであり、日々の業務は、理想と現実のギャップに苦しむことが多いものという印象を強く感じました。例えば、住居の安全性を巡る問題では、本人の希望と安全確保の狭間で悩むことが多く、福祉の現場で働く人々にとって日常的な課題であり、すぐに解決を求められるケースが多々あることを知りました。特に印象的だったのは、虐待のような緊急事態に対する対応です。迅速に行動しなければならない一方で、利用者の希望や尊厳を尊重する必要があり、自分たちの価値観を押し付けることなく、利用者の安全を確保するためのバランスを取ることは非常に難しいと感じました。また、福祉現場で働く人々の間で共通している思いとして、「利用者のためになることを第一に考える」という姿勢が見受けられます。これが福祉の根底にある信念であり、それを持ち続けることが重要だと再認識いたしました。

現場での経験や仲間との協力を通じて、自分たちの業務を見直し、改善し続ける姿勢が大切であり、日々の業務の中で感じるジレンマや課題を乗り越えながら、利用者にとって最善の支援を提供するために努力し続けることが、福祉の現場で働く人々の使命であると強く感じました。



権利擁護委員会

【講師派遣】

呉西地区成年後見センター市民後見人養成講座や、各地域包括支援センターなどが開催する出前講座へ講師を派遣しています。成年後見制度の基本的なことや実務内容、意思決定支援等について講師の体験も踏まえて話をしています。地域における権利擁護体制の構築に向けて今後も取り組んでいきたいと思ひます。

「成年後見活用実務セミナー」を開催します

今年度も下記の内容でセミナーを開催します。昨年に続き今回も「意思決定支援」をテーマに水島先生にご講演をいただく予定です。詳細は同封の開催要項をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております！

日 時：2025年1月16日（木）

I 部 13時～15時20分

II 部 15時30分～16時30分

方 法：Zoomミーティングを用いたオンライン研修

内 容：I 部①権利擁護センターぱあとなあ富山の活動紹介

②富山市の中核機関の取り組み紹介

③講演「意思決定支援の基本～概論とガイドラインのケース紹介～」

講師：一般社団法人日本意思決定支援ネットワーク

副代表・弁護士 水島 俊彦 氏

II 部 成年後見制度申立て実務について
事例紹介

11/4 介護の日フェスティバルに参加しました

11/4、富山市婦中町のファボーレ富山で開催された令和6年度介護の日キャンペーン活動「介護の日フェスティバル」にて、スクールソーシャルワーカーや成年後見制度の相談・啓発ブースを設けたり、ステージで社会福祉士会の紹介をしたりしました。



私のおススメの本

以前から会員の方から募集している「私のおススメの本」のコーナーですが、下記のアンケートでも募集したいと思います。おススメの本としていますが、映画や漫画なども大歓迎です。事務局へメールで原稿をお送りいただくことも可能です。みなさまのおススメを心待ちにしております。

今回は、前回のアンケートで回答を頂いた『私のおススメ本』をご紹介します。

題名『ひきこもり時給 2000 円』



★プロフィール（著者:岡本 圭太） ※彩流社 WEB サイトより抜粋

1974 年生まれ。大学での就職活動の失敗をきっかけに、25 歳までの約 3 年間、社会から距離を置いた生活を送る。20 代後半は病院のデイケアや、ひきこもり当事者・経験者が参加する自助グループ等に参加し、少しずつ社会参加の経験を重ねる。30 歳で就職。支援団体職員、若者向けの就労相談施設で相談員の職に就きながら、各地の行政機関や親の会、学校等でひきこもりに関する講演をおこなう。社会福祉士、精神保健福祉士。

著者は、就職活動の失敗をきっかけにひきこもりになった。それでも、決死の思いで働き出してみると、家で苦しい思いをしている時の辛さは、仕事の辛さの何倍もあったと感じた。もし辛さを時給換算したら、最低でも「時給 2000 円」くらいだろうという感想が、タイトルの元となっている。

- ・ひきこもりとして過ごした経験、ひきこもり支援の経験談など 20 代～40 代までのエッセイをまとめた本
- ・わかりやすいマニュアル本やハッピーエンドのお話ではなく、あるがままが描かれている。

事務局からのお知らせ

事務局へのお問い合わせは、E-mail またはお電話でお願いいたします。

(土日・祝祭日を除いた 10:00～15:00)

連絡先 Tel/Fax : 0766-55-5572 E-mail : toyama.csw@gmail.com

会員数 510 名 (令和 6 年 10 月 末日現在) 研修を受け自己研鑽に努めましょう。

※講演会のお知らせ

12 月 18 日(水)に能登半島地震災害についての公開講演会を開催予定です。

詳細はホームページでお知らせします。

★鯽おこしの画像を募集

鯽おこしの余白に載せる画像を募集します。

例.) ペットや、富山の風景画、オススメのスポットなど

- ・人物や事業者の許可が必要な画像は扱えません。
- ・掲載する画像は、必ず掲載されるとは限りません。
- ・掲載する際に、画像を加工（※トリミングや画質の調整など）する場合があります。

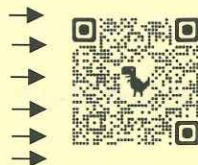
■画像の投稿について↓↓↓

- ・メールのタイトルに『鯽おこし写真投稿』と入力
画像の題名、名前【ニックネーム可】を記入し、事務局あてにメールして下さい。

★アンケート★

ご意見をお聞かせください

皆様のご意見を、鯽おこしに反映させられたらと思います。お気軽にご意見をお寄せください。



アンケートは
こちらから



編集後記

最近、社会福祉士会の活動で、いろんな方とのご縁を頂くことが増えてきたように感じます。先日は、趣味の話から「原田君、アカペラやっているのね。ぜひ、歌ってよ」と声をかけて頂き、10月に高岡市の“大仏茶屋”さんと、仲間と一緒にアカペラを披露してきました。普段から大仏茶屋さんを利用されている地域のお客さんと交流して、楽しい時間を過ごすことができました。今回、お客さんから「懐かしい曲」、「子ども向けの曲」などのリクエストを頂いたので、来年に向けて曲を準備しようと考えています。

今回のライブを企画し、調整して下さった社会福祉士の先輩の「地域交流は一人ではできない」という言葉が印象に残りました。私たち社会福祉士も、1人でできることは限られます。普段の仕事も、地域交流も同じで、地域にある資源や仲間、強みや弱みといったアセスメントなど、専門性やネットワークを活用して、地域づくりに貢献できるのではないかと感じました。冒頭の会長の記事にも、「居場所」がキーワードとして挙げられていましたが、こうした身近な地域への取り組みがヒントになるのではないかと感じます。

皆さんも、よければ社会福祉士会での出会いを大切に、つながりの輪を広げて頂ければ幸いです。

(原田)